

平成29年度森林土木技術研修会を開催しました

平成29年10月30日から31日にかけて、森林土木技術研修会を、兵庫県神戸市、丹波市及び淡路市において実施しました。

近年、局地的集中豪雨により、特定の区域だけに甚大な災害をもたらすケースが増えていることから、これらの被災からの復興状況を視察研修することを目的としており、今年度は11名が参加しました。

1日目は、まず始めに平成28年度復旧治山事業（繰越）で行っている有馬温泉にある落葉山地区の切土工・土留工について、兵庫県六甲治山事務所の竹下所長補佐より説明を受けました。騒音等の問題、工事時間帯が限られる中での施工等、温泉街ならではの特殊性があるとのことでした。

引き続き、有馬温泉地内で現地を視察しました。現場は、崖に近い急傾斜となっており、相当の難工事であると実感させられました。



有馬温泉地内の落葉山地区

次に、丹波市へ移動して、平成26年豪雨災害で大きな被害を受けた丹波市市島町前山地区について、兵庫県丹波農林振興事務所の維田森林専門員より説明を受けました。被災箇所が多く、砂防・急傾斜（土木）及び治山事業（農林）を組み合わせ対応したこと、堰堤を折り曲げた特殊な谷止工があるとのことでした。



丹波農林振興事務所との意見交換

引き続き、現地視察を行いました。山並みに砂防と治山の現場がいくつも錯綜し、被害の大きさを実感するとともに、植林し、さらに苗の鹿食害防止対策を行っている治山の現場とコンクリートが剥き出しの砂防の現場との違いを車中から走行中、交互に比較することができました。また、堰堤には死亡事故を踏まえた侵入防護柵が設置されるなどの特徴がありました。



丹波市市島地区の折り曲げた堰堤と
鹿食害防止対策(苗に網をかけている)

翌日は、淡路市にある北淡震災記念公園へ行き、平成7年1月の兵庫県南部地震で出現した野島断層を視察しました。東日本大震災の経験もあり、地震の怖さや防災の重要性を再認識したところです。

2日間を通じ、参加した会員には今後の業務に大いに資する大変有意義な研修となりました。

今年度は、時期の関係からか参加者が少なめでしたが、次年度は、より多くの会員が参加できるように検討したいと考えておりますので、ご意見やご希望がありましたら随時事務局にお知らせ願います。



研修参加者